



病院だより



令和6年4月1日 発行:公立福生病院 経営企画課 経営企画係 住所:東京都福生市加美平1-6-1 <https://www.fussahp.jp>



新企業長就任のあいさつ



福生病院企業団 企業長 吉田 英彰
兼 公立福生病院 院長



このたび、構成市町である福生市・羽村市・瑞穂町の各市長と町長の皆様から指名をいただきとともに、福生病院企業団議会にて報告をいただき、令和6年4月より松山健前企業長の後を受け福生病院企業団の企業長に就任いたしました。

これまで、松山企業長という後ろ盾がいっぱいありましたので、懸案事項があればご教授いただくことができました。これからはそれがなくなり、その責任も全て担わなくてはならないという、責任の重大さに大変身の引き締まる思いでございます。その一方、一人で担う方が最終決定が迅速化し、事業の推進を加速できるという利点もあります。

全国的に医師・看護師をはじめとした、医療従事者の不足が叫ばれておりますが、当院もご多分に漏れず厳しい状況となっております。しかし、職員一丸となり、昨年策定した公立福生病院経営強化プランに則り、健全経営を目指していきたくと思います。

地域の基幹病院であります、市立青梅総合医療センター、公立阿伎留医療センターとは密接な関係性を保ち、お互いに助け合いながら西多摩地区の医療を充実させるべく、各院長間でも共通の意識を持ち綿密な連携を図っております。

当院は「信頼され親しまれる病院」を目指し、職員一同一致団結して努力してまいりますので、引き続き変わらぬご支援のほど、よろしく願いいたします。

松山 健 名誉院長の就任について

3月31日付で退任された松山 健 前企業長は、4月1日から名誉院長として引き続き当院の運営を支えるとともに、小児科外来で月1回の診療に従事いたします。

能登半島地震の被災地支援のため当院職員2名を派遣し、3月6日に報告会を開催いたしました

～被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます～

看護部看護科主任 外来勤務 関 真紗美（災害支援ナース）

【派遣先】金沢市内1.5次避難所【派遣期間】2月2日～2月5日

令和6年1月1日の夕方に起こった石川県能登半島を震源地とする M7.6、最大震度7を観測した地震では未だ被災地で断水が続き、支援が必要な状況です。

今回私は日本看護協会からの派遣要請を受けて災害支援ナースとして活動してきました。

災害支援ナースとは研修を受けた上で都道府県看護協会に災害支援ナースとして登録し、被災地に派遣される看護職のことで、

今回の派遣では、私自身、災害支援ナースに登録してから初めての派遣要請でした。更新研修を受けてから丸1年以上経っており、不安もありました。連絡がきた時は慌てて所属長と日程調整を行い、看護協会に提出しました。その後、夜勤明けにウトウトとしていたところに派遣決定の電話がかかってきたことを覚えています。派遣日が決定してから3日後には出発するため、通常の業務をこなしながら災害支援用物品を受け取り、3泊4日分の準備を行いました。

このため、慌ただしい出発になり、悩んでいる時間はありませんでした。なお、災害支援は「自己完結」が原則で、被災地の物は使用しない、ゴミも全て持ち帰りがルールです。水や食料、着替えにヘルメット等を50Lの登山用リュックに詰めていざ出発となりました。

今回の派遣先が金沢市内の1.5次避難所で、金沢駅からは看護協会が準備したバスに乗って移動しました。

1.5次避難所という概念は日本初であったため、研修で聞いていた避難所での活動とは違いもあり、戸惑いましたが、派遣された災害支援ナースが沢山いたため心強く感じました。スポーツセンター内は約200個の個人用災害テントが並んでおり、私たち災害支援ナースは利用者の健康観察、熱や咳、下痢嘔吐がある方の対応をしていました。避難所としては規模も大きく多職種が関わっていることもあり、情報の行き違いや職種による介入の棲み分けの難しさはありましたが、一緒に活動したメンバーにも恵まれ、普段の病院勤務では体験できない貴重な経験となりました。利用者との会話はどれも心が痛むものばかりでしたが、そのようななかでも、リハビリチームがラジオ体操やレクリエーションを開催して時折みられる利用者の笑顔に私自身がほっとしていました。災害支援研修で「被災地はすでに充分すぎるほど頑張っている。現地で改善策を提唱したくなくても、それは現地も十分にわかっているが、実施できない現状に苦しんでいる。」と言われた事を常に念頭に置いて行動しました。まだ被災地は復興には遠い現状です。自分に出来ることを続けると共に、自然災害は時間も場所も選んではくれないと実感しました。個人としても災害拠点病院の一員としてもより一層災害対策について考えていきたいと思えます。



義援金の報告

震災直後から当院総合案内に義援金箱を設置し、2月末までに37,732円が集まりました。当院職員互助会からの20万円の義援金と合わせて日本赤十字社を通じて3月6日に被災地にお送りいたしました。募金活動にご協力された皆様にお礼申し上げます。

看護部看護科主事 6階西棟勤務 角田 修一（JMAT 研修修了者）

【派遣先】市立輪島病院【派遣期間】2月16日～2月22日

<現地の看護師から>「家で病院の話をしてもしようがないし。ここで話を聞いてもらえるだけでも私達は吐き出せる。」という言葉が聞けることが出来て、支援に行ったはずの私自身が救われました。

市立輪島病院は被災から1か月半経過していましたが、未だに上下水道の断水が続いており本来の病院としての機能は取り戻せていない状況でした。重症患者さんや急性期の患者さんは都市部の病院へ搬送されたため、入院している患者さんは少なく、自立されている方がほとんどでした。支援看護師の役割としては、主に上下水道が使えない状況下での清潔ケアや環境整備、水を上の階まで運ぶ等でした。正直な気持ち、自分の役目ってこれだけでいいのかな・・・と思いながら過ごす時もありました。お話し好きの患者さんのところで過ごすにも限界があります。そんな中、ナースステーションでは再会を喜び合う現地の看護師さんたちの明るい声が響いていました。私の目に映ったのは、自身も被災しているのに、他人の看護をするために病院に何時間もかけて来ている、これぞ白衣の天使か!?!と眩しいばかりの看護師さん達でした。発災時の病院の様子から現在に至るまでの事、街の様子や生活についての事など、面白おかしく時にはうるうるしながら話を聴かせていただきました。

<発災当時の病院で起きたこと>

「とにかく全てが倒れてきた。ベッドのロックが外れるんです。患者さん達が色々な方向に向いていた。揺れがおさまって、足場だけ確保するのに苦労したけど、男子達がきれいに片づけてくれて驚いた。中でも自販機が一番重かったらしい。」

「外来は文字通りのパニック状態だった。停電状態で明かりのある所に人々が集まるのか、公的機関だからなのか、とりあえずここに来る人々であふれかえった。寒かったから気を利かせてトリアージを中で行ったら、院内に沢山の人がなだれ込んできた。トリアージを行っていても、一般人が横を通り過ぎ「今通った人は誰??」といった状態になった。」

「売店はシャッターを破壊されて、商品を持ち出された。知らない人が院内に入り込み、医局にまで入ってきたし、栄養科の食料もなくなった。布団とかもなくなったのよね。私もやっと帰宅しようと思ったらコートと靴がなくなっていた。これで帰るん?て。いろんなところに知らん人いたな。」

「トイレは流れんし、使わないでくださいって言っても使われるんです。もう排泄物で詰まっているのにそれでもまだ使おうとするんです。開かないようにテープで固定してもまだ。支援ナースさんにトイレ掃除してもらっちゃった。ホントにごめんなさい。」

「雨の日はバケツにためてみんなで洗髪しました。冷たかったけど気持ちがよくて楽しかった。」

「病院から朝市が燃えているのが見えていた。私の家も燃えてるなって。家族が無事だったから仕事は出来た。」などなど、壮絶な経験をされているにもかかわらず、それでもまだ、どの方も笑顔が素敵な看護師さんたちでした。

<おわりに>

被災地への派遣調整と、勤務調整をしていただきました全ての福生病院職員様と応援していただいた関係者の皆さま、私の家族へ、貴重な体験をさせていただき心より感謝いたします。

今後はこの経験を生かし、いつの日か必ず私達の身にもやって来であろう災害に備えることを視点に活動を行いたいと思えます。



その他の派遣支援報告

3月17日から3月23日の期間で看護師1名を石川県七尾市の社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院に派遣し、病棟・手術室等での業務を支援いたしました。今後も関係団体からの要請に応じた支援活動をしてまいります。

産後ケア事業のお知らせ

当院の産後ケア事業は従来、瑞穂町とのみ連携しておりましたが、令和6年3月1日に福生市、4月1日から羽村市と連携することになり、全ての構成市町での産後ケア事業(デイケア)を開始いたしました。

お母さんが安心して産後の育児や生活を送ることができるよう、当院のスタッフがサポートをさせていただきます。授乳のことが心配、育児のことで悩んでいる、心身がつらいということがありましたら、ぜひご利用ください。

産後ケア事業とは

産後に家族等から支援を受けられないお母さんと赤ちゃん(生後6ヶ月まで)に心身のケアや育児サポート等を行い、産後も安心して子育てができる支援体制を確保することを目的とした市町村の事業です。

ご利用について

ご利用日:平日(月～金曜日)

ご利用時間等:デイケア(通所型) 10時～16時

※ご利用を希望される方は、お住まいの福生市、羽村市、瑞穂町の保健センターにお申し出ください。



産後ケアの内容

● 育児相談	育児の不安やお悩み、疑問に助産師が回答いたします。
● 授乳指導	赤ちゃんの抱き方、乳房の含ませ方、乳房のセルフケアの方法、授乳量、ミルクの補足量など授乳について、助産師がお教えます。
● 乳房マッサージ	乳房トラブル、母乳の分泌不足感のある方に乳房マッサージを助産師が行います。
● 赤ちゃんの沐浴	生後1ヶ月くらいまでの赤ちゃんに対し、助産師が沐浴をおこないます。生後1ヶ月以上の月齢であっても、希望がある場合は沐浴を行います。
● 栄養相談	母乳に良いとされる食事や、離乳食、手軽に栄養を取ることができる食事について、管理栄養士による栄養相談を行います。(管理栄養士の勤務状況により対応が難しい場合がございます。予約時にご確認ください。)
● 精神科医によるカウンセリング	精神科医のカウンセリングを受ける事が可能です。(精神科医の勤務状況により対応が難しい場合がございます。予約時にご確認ください。)
● 食事	管理栄養士の献立による産後食を提供いたします。



プライバシーを確保した明るい個室をご利用できます

